

## サレジオ同窓会日本連合 2018年度 役員会 議事録(案)

日時： 2018年11月17日(土) 15:00~17:15

場所： 日向学院中学校高等学校 図書館 3F 会議室

出席者： 吉田会長、河村副会長、浦元副会長、小太刀副会長

近松理事、岸理事(WT)、鈴木理事(WT)、酒井理事、又江原理事(WT)、  
鍛冶田理事、井上理事、矢本理事(WT)、長岡理事、横山会計理事、北村監事  
ワーキングチーム(WT)：長沼リーダー、飯田リーダー、塩見、下ノ本  
連合顧問：濱口神父、鈴木正夫神父(WT)、濱崎神父、鈴木英史神父  
事務局：立石(WT)、大川(WT)  
オブザーバー：黒岩、鎌田、南、脇田、黒木、大木  
(計31人)



### 1. 開会の言葉

司会の浦元副会長(日向学院同窓会長)より、開会の言葉があった。

### 2. 歓迎の挨拶

連合顧問・日向学院校長の濱崎神父より、次の通り歓迎の挨拶がなされた。

日向学院へようこそ。宮崎でこの会合が開かれるのは2回目となる。日向学院同窓会メンバーも若返りし、同窓会活動が活性化してきている。今日・明日と楽しい集いとなるように祈っている。

### 3. サレジオ同窓会連合の紹介

立石事務局長より、11月11日に東京の星美学園で開催された「サレジオ家族の集い」でサレジオ会総長やサレジオ家族メンバーに対して行ったプレゼンテーションをもとに、サレジオ同窓会連合についての説明が行われた。

### 4. 「サレジオ同窓生の約束」唱和

出席者全員で、「サレジオ同窓生の約束」を唱和した。

### 5. 議長および書記の選出

本役員会の議長として吉田会長が選出され、議長より次の通り挨拶がなされた。

今日この日にあたり、濱口管区長をはじめサレジオ会の皆さん、各同窓会のメンバー皆さん、そして浦元会長をはじめ日向学院同窓会の皆さんに感謝申し上げたい。明日のゴルフまで含めて楽しみにしている。すでに顔見知りのメンバーも多くなってきた中で、今後の同窓会連合のあり方についても真摯に議論していきたい。我々の次の代までサレジオの「世の光」が続いていくことを願っている。

その後、議長は本役員会の進行役として立石事務局長を、書記として大川事務局員をそれぞれ指名し、承認された。

### 6. 参加者紹介および近況報告

立石事務局長より、資料1「役員名簿・ワーキングチーム名簿」に基づき、各校の同窓生・在校生数、役員・顧問・WTメンバー等の紹介がなされた。また、本役員会について、委任状提出者を含め、役員・顧問の過半数が出席しており、議事成立要件を満たしていることが確認された。その後、会合参加者が各自自己紹介を行った。

## 7. 審議事項

### 【議案1】前回役員会（2017年10月）議事録の承認

資料2「前回役員会（2017年10月）議事録」に基づき、前回役員会の議事録を確認し、全会一致で承認した。

### 【議案2】会長レベル＋ワーキングチーム会合（2018年7月）の報告・議事録の承認

資料3「会長レベル＋WT会合（2018年7月）議事録」に基づき、2018年7月に行われた会長レベル＋ワーキングチーム会合について報告が行われた。議事録を確認し、全会一致で承認した。

会合についての報告を受けて、議長より、日本連合の今後のあり方について以下の通り問題提起がなされた。

- ・ どのような形になれば「活性化した」ということができるのか。
- ・ 各同窓会がゆるやかにつながりながら、同窓会イベントの際、近くにいる他校の同窓生も気軽に参加できる形を整えることが大切。互いの学校・同窓会を応援できるような連合でありたい。
- ・ 将来的に校名に「サレジオ」の名前を共通につけることも考えてよいのではないか。

この後、議長は本役員会出席者の発言を促し、概ね以下のような発言があった。

- ・ この代表の集まりを核として大切にしながら、常に刷新を考えていくことが大切ではないか。
- ・ 各地にある同窓会支部の会合に出向きながら、組織をどう変えていくか、学校との結びつきをどう強めるかなどに取り組んできた。財務・参加意識の向上を第一としなければならないが、他校のノウハウをもっと教えてもらいたい。次の世代につながる「明日に架ける橋」となりたい。
- ・ ようやく連合は形になりつつある。各同窓会の代表ということを超えて、「連合の」という形で実績を活動していくことが大切。
- ・ かつてに比べて、「サレジオ」の名は認知度が高まってきている。学校を超えて同窓生の交流ができることは理想的なことで、それを現役生の世代にも伝えていけるとよい。
- ・ 「サレジオ」に校名を統一することについては、万一のことがあればリスクもあるかもしれない。ただ、「サレジアン」という言葉はもっと出してもよいのではないか。
- ・ 互いの情報交換の機会を大事にしたい。「サレジアン」の仲間の集まりとして前進していきたい。
- ・ 大阪は会費を年会費制にして、組織としても財務上も大きなプラスになった経緯。連合としても、各同窓会としても先を見据えることが重要。
- ・ サレジオ高専の場合、校名変更の際、移転も伴った。それにあたっては困難や反対もあったと聞いている。まずは、各校に共通する中身をきちんと認識し、大切にしていけるのがよい。

### 【議案3】2017年度決算報告および2018年度予算案の確認

資料4「2017年度収支決算書」に基づき、横山会計理事と北村監事より昨年度の決算報告が行われた。また、横山会計理事より、同資料の「2018年度予算案」に基づき、今年度の予算案についても説明が行われ、特に支出において広報費（ホームページ制作費）やアジア大会準備費等に重点的に配分していること等が確認された（当該決算・予算については7月会長レベル会合にて承認済み）。

## 8. サレジオ会総長来日の報告

参考資料「ドン・ボスコの風 総長来日特別号」を参照しながら、サレジオ会総長アンヘル・フェルナンデス・アルティメ神父が2018年11月7～13日、日本を訪問したことについて、立石事務局長と大川事務局員より報告がなされた。

連合にとっては、とりわけ11月10日に東京・調布で各校在校生や同窓生も参加して行われた「SYM

の集い☆スペシャル～総長と若者の集い～」が画期的なものであったことが強調された。

## 9. 各種プロジェクトについて WT から進捗報告

まず、資料5「WT 作業記録シート」に基づき、大川事務局員（WT キャプテン）より、2017年10月の正式発足以来、WT が6回の会合を開催し、各種プロジェクトの具体的な検討や作業を行ってきたことが報告された。続いて、以下の通り検討・進捗状況が担当者より報告された。

### 【報告1】連合の活動アイデア（連合の意義）について

立石事務局長（WT キャプテン）より、連合の活動アイデアとして、在校生の合同・交流活動への支援、若手同窓生の活動支援、サレジオ国際交流センター構想等が説明された。また、連合の活動へ参加を促し、寄付を呼びかけるため、連合の意義をわかりやすく説明することが必要との認識のもと、次のような説明文が検討されていることが説明された。

「サレジオ同窓会日本連合は、サレジオの日本・世界のネットワークを活かして、母校ならびにサレジオの発展に寄与し、在校生や若手同窓生に豊かな学び・交流の機会を提供し、良き社会人として、若者と共に、社会・世界に貢献することを目指します。」

### 【報告2】ウェブサイト制作の進捗状況について

資料6「サイトマップ案」「連合紹介・寄付願いチラシ」に基づき、長沼 WT リーダーより、説明がなされた。連合ウェブサイトは同窓生を中心に制作しており、8割ほどまで進捗していること、連合紹介チラシの内容をベースにスマホ等でも見やすい形を心掛けていること等が説明された。

同窓生の人物紹介等、少しずつコンテンツを充実させていくこと、各同窓会の活動の紹介等も考えていること、将来的にはネット決済のシステムも整え寄付に活かすこと、各学校サイトや同窓会会報・サイト等で紹介してもらうことで同窓会への関心・支援につなげるといったアイデアが示された。

### 【報告3】寄付について

飯田 WT リーダーより、2017年度の寄付の累計が13件105,000円、2018年度は2件33,000円であること、また寄付集金のため、ゆうちょ銀行の振替口座を開設済みで、払込用紙をチラシと共に近く配布予定であることが説明された。

また、さらに寄付を集めるためのアイデアとして、卒業時に集金する各校の同窓会費に、連合分を上乗せすること、既卒者からの寄付をいただく方策も検討すること、寄付の返礼品としてサレジオグッズを作成し、連合ウェブサイトや各種イベントで販売するといったアイデアが示された。

### 【報告4】2020年アジア大会について

立石事務局長（WT キャプテン）より、資料7「2020アジア大会素案2.3」に基づき、コンパクトかつ若手参加の大会としたいこと、開催候補日として、A案)2020年10月17日(土)～20日(火)、B案)2020年11月14日(土)～17日(火)、参加人数として80～150人、参加費として宿泊込で15万円以内になるよう調整を図ること等が説明された。

また、2018年11月22～24日、タイ・バンコクで開催されるアジア代表者会議（2016年アジア大会からの進捗報告・中間評価、次回2020年アジア大会などについて検討される）に立石事務局長が出席予定であることが報告された。

以上のWTについての報告を受けて、議長より、次の通り発言がなされた。

- ・ WTが積極的に活動してくれていることに感謝したい。若手のメンバーが自ら自覚して取り組んでくれていることに意味がある。2020年のアジア大会は連合の最終目標ではない。その後に持続し

ていくために何ができるかということ、検討の中でますます追求してもらいたい。

この後、議長は本役員会出席者の発言を促し、概ね以下のような発言があった。

- ・ ウェブサイトについて、SEO（検索した時にフィットしやすい）対策を行うとよい。
  - ・ アジア大会にはワイワイしたお祭りの側面も必要であろう。一方で決めるべきこともある。メリハリのきいた大会にできればよい。
  - ・ アジア大会の具体的な役割分担はいつごろ分かるのか。
  - ・ 大会時の空港からのアテンドの問題。なるべく送迎に対応できる体制を考えたほうがよい。
  - ・ 大会にあたって、手順をしっかりと整えることが大切であろう。費用がやや高く感じるが、オリンピック開催年でもあり、ホテルで開催するとすればやむを得ない面もある。
  - ・ サレジアニ・コオペラトリーのアジア大会では若者による報告が印象的だった。GEX（同窓会青年部）を各支部でつくっていき、交流していくことが大切ではないか。若者らしさで連合や大会に工夫が加えられると素晴らしい。
- いずれも、ローマ本部、アジア・各国連合との調整を踏まえて固めていくことになる。

## 10. 今後の予定

立石事務局長より、連合共通ピンバッジを2019年春に追加発注（3年分を目安に）することを予定しているが、材料費が高騰しているため製造原価を1個400円から420円に値上げすることとなる（頒布価格は600円に据え置き。連合には180円の収入となる）ことが報告された。

また、次回会長レベル会合を、2019年春ごろに東京・四谷の連合本部で、また次回役員会は、2019年秋ごろに大阪星光学院で開催することが確認された。

## 11. 管区長の挨拶

連合顧問・サレジオ会管区長の濱口秀昭神父より、次の通り挨拶がなされた。

先だって来日した総長は、訪問に満足して帰られた。一人ひとりを見て、喜びを分かち合いたいという姿勢が非常に印象に残った。

今日は初めて同窓会連合の会合に参加した。連合に関連して、今2つの夢がある。1つは、ドン・ボスコの精神、若者たちのためにという精神のもとに、「サレジアン」として1つの家族になれたらいい、交わっていったらいいという夢。もう1つは、サレジオ会日本管区は、この30年ほどで会員が激減している。各学校からかつては司祭・会員が生まれてきた歴史がある。これから、1人でも2人でもサレジオ修道会のメンバーになる若者が出てくるという夢が実現したらうれしい。そのために、同窓生の皆さんのより一層の協力をお願いしたい。

## 12. 閉会の言葉

浦元副会長より、閉会の言葉があった。